

働き方改革推進へ

一般社団法人

日本自動車運行管理協会

役員車などの各種送迎で幅広く活躍する自動車運行管理業で、働き方改革の推進が具体化している。改革をテコに顧客とのパートナーシップを深め、成熟した品格のあるプロフェッショナルを目指している。

エッショナル集団へと変貌を遂げようとしている。一般社団法人日本自動車運行管理協会（大槻光雄会長）の上司役員に課題と展望を語っていただいた。

大槻光雄 昨今の社会現象では労働人口の減少が進み、人的サービスの分野では必要な人材確保が厳しい状況が続くだろう。当業界にとって労働力不足は事業の根底に関わる問題としての認識が会員各社に必要である。

請負料の値上げ要請

賃金は1〜3割低い。人手不足に拍車がかかっている。一般社団法人日本自動車運行管理協会（大槻光雄会長）の上司役員に課題と展望を語っていただいた。

賃金は1〜3割低い。人手不足に拍車がかかっている。一般社団法人日本自動車運行管理協会（大槻光雄会長）の上司役員に課題と展望を語っていただいた。

などが労働時間および時給額の改善などで採用を進めていると思われ、対抗することが難しく、一般求人とは別に社員紹介に頼っている。運行管理業という業態が一般の労働市場で理解、認知されていないのでは、という点も採用難の要因ではないだろうか。業態的認知度を世間に浸透させる方策を考えるべきである。方策としての運転サービス士の賃金アップ、その原資となる請負額の引き上げを顧客に受け入れていただくことが肝要。当業界も時間外労働の短縮が必然であり、今後は複雑な労働シフトでの対応も必要となる。他社間での人材の融通を検討し

覚悟持ち顧客と値上げ交渉

理事 村山陽

職業にする。私が経営する会社でも値上げ交渉を始めている。苦勞しているが一步を踏み出した。値上げを業界の大きな流れにした。大槻 かつては社員運転手に指示できない無理な条件を請負会社を求める顧客もいた。同じ労働基準法で仕事をするのに「請負ならできるだろう」と言われることに疑問や矛盾を感じてきた。我々は働き方改革を機に、請負契約のあり方について新たな提案を顧客にすべきだと思う。まず、有給休暇。これまで事業者は、運転サービス士の有給取得にコストをかけて代務要員を確保365日体制で請け負ってきた。労働法関連の改正を見据え事業者は義務化が予定される有給付与等について契約条項に反映させてはどうかと考える。

会長 大槻 光雄

中長期的な運行管理業の経営改革の着眼点としては、質の高い運行サービスを提供すること生命線とし、ES（従業員満足度）の向上など、今以上の着眼を持って推し進めなければならない。

吉谷基伸 運転サービス士の就労時間は現状では一般産業の1.2〜1.5倍、

賃金は1〜3割低い。人手不足に拍車がかかっている。一般社団法人日本自動車運行管理協会（大槻光雄会長）の上司役員に課題と展望を語っていただいた。

などが労働時間および時給額の改善などで採用を進めていると思われ、対抗することが難しく、一般求人とは別に社員紹介に頼っている。運行管理業という業態が一般の労働市場で理解、認知されていないのでは、という点も採用難の要因ではないだろうか。業態的認知度を世間に浸透させる方策を考えるべきである。方策としての運転サービス士の賃金アップ、その原資となる請負額の引き上げを顧客に受け入れていただくことが肝要。当業界も時間外労働の短縮が必然であり、今後は複雑な労働シフトでの対応も必要となる。他社間での人材の融通を検討し

魅力ある職場に

山口 私の会社では、地方で採用した運転士が管理職にキャリアアップする道を開いている。ただ、それを魅力として応募する人ばかりではないのが実態だ。社員にとって魅力ある職場

とはなにか。管理業という職業の魅力はなんだろう。魅力をもっと伝えたい。吉谷 たとえば朝夕の送迎だけの仕事で、昼間の2時間ほどアルバイトをする。そんな働き方も案外、運行管理業ならではの魅力。

村山 運転者という職種で仕事を運ぶ時、「請負運転者」は魅力があるはず。無理なノルマはなく、稼ぐ運転士もいる。年間退職率も低い。自信をもていい。キャリアアップを図る登用制度もいい。専門職を目指す人とリーダーを目指す人、どちらのニーズにも応えられるバランスの良い組織を作りたい。

大槻 近い将来IT世代が社会の中枢を担い技術革新が進めば、社会の構造は確実に変わる。その時、われわれはどうビジネスを展開すべきなのか。顧客も運転士も自動車も変化していく。50年間変わらないモデルで社会の信頼を得た運行管理業も今後は、新しい社会にマッチしたビジネスモデルの構築が大きなテーマになる。



大槻 光雄会長



吉谷 基伸副会長



山口 哲也常務理事



村山 陽理事

賃金アップで人材確保を

常務理事 山口 哲也

未来の運行管理業

吉谷 自動運転やAI（人工知能）が注目されている。ヒューマンパワーを売りものにする産業でも技術革新には背けない。運転士が担うものは変化し、顧客が運転サービスに求めるものも変わる。未来の運行管理業の行つ「管理」とは？ 運転サービスは「運転システムを管理」「運転を監視する」「目的地まで

の工程をプログラミングする」といったコントロール中心の仕事になり、管理会社はモニターで管理車両の動態を見ている、といった姿かもしれない。村山 人間のあつんの秩序はまだ必要だろう。「職業運転手はむしろ社会的地位を取り戻す時代が来る」、とあえて声を大に主張することも大事だ。

一般社団法人

日本自動車運行管理協会

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-26-9 五輪プラザビル5F
▼☎03(6420)3865 FAX03(6420)3866
▼Eメール jimukyoku@ajva.or.jp
▼URL http://www.ajva.or.jp